

富山大学大学院理工学研究科 都市・交通デザイン学プログラム 修士2年

前田 瑠さん

私は大学院生で、fil の中では一番年齢が上です。修士課程では都市デザインを専攻しており、fil の学生と五福居住の学生で行動範囲がどう違うのか、どんな経験を得ているのか、インタビュー調査をメインとした研究を行っています。

私が今住んでいるフロアでは、先日 20 歳の誕生日を迎えた仲間がいました。その日はみんなで誕生日会を開いたり、日常的に、夕食時に食材をシェアして楽しく過ごしています。一人暮らしとは違って、仲間と一緒に生活空間を共有することが本当に楽しいと思っています。

私の趣味として、コーヒーがあります。現在もバリスタとしてカフェでアルバイトをしています。コーヒーは、ただの飲み物以上の意味を持つ、面白い媒体であると感じています。コーヒーを通じて人との交流が生まれたり、新しい「たまり場」のような場所ができることに価値を感じています。先日 fil がランドオープンした際には、入居学生としてイベントを企画しました。焼き菓子とコーヒーの販売、そしてラテアートのワークショップを担当しました。作った焼き菓子はありがたいことに完売し、ワークショップには 20 人程の参加がありました。参加者たちとはコーヒーを飲みながら楽しく 1 時間程お話し、深い交流が生まれ、質のある経験となりました。自分のやりたいことを通じて地域の人と交流し、仲間と一緒に実現することが fil の魅力だと感じています。そしてこれらの活動は、サポートをいただいている企業の皆様のおかげであると考えています。今後は fil の中だけでなく、もっと広く活動範囲を広げていきたいです。例えば、城址公園にあるオシャレなキッチンカーが全く活用されていないという話を公園管理者の方から聞いたことがあります。そのような場所で出店し、多くの人々と繋がる場所を作りたいと考えています。ユニークなイベントや活動を通じて、fil を軸としたもっと素敵な交流の場を広げていきたいなと思っています。

富山大学都市デザイン学部 地球システム科学科 1年

伊藤 太一くん

私は、今年の 4 月にまちなか学生シェアハウスに入居してきて、この学生シェアハウスは「家」という機能以外にも恵まれた環境であると感じる場面が多くあります。

大学生になり、一人暮らしを始め、地域のためになにかやってみたくとも、多くの場合実現することはありません。それほど、地域に貢献することはハードルの高いことだと思います。しかし、このシェアハウスでは、この数カ月間で何度もその機会がありました。意思さえあれば多くの人と関わり合うことができます。これらの体験から得られるものは、経験のみならず、自分にできることの大きさを知ることができます。少し前までなら、出来ないだろうと決めつけていたことも、今では、やってみたくという感情が生まれます。自分がやりたいと思っていたきっかけを大人に拾ってもらい、動いてくれる、自分の思い、考えが目に見えてわかるような形になるのは、ここでしか出来ないことだと思います。

さらに、私は「シェアハウス」というところに大きな刺激をもらっています。同居人には、自分から動くことによって人を動かすことのできる魅力を持った人たちがいます。同世代の人だからこそもらう刺激が多く、こんなこともやっているのかと、日常からいろいろなことを勉強させてもらっています。

ここに入居する前は、大学生になったら何がしたいとか、将来の夢とか、何もわからず、どんな 4 年間なるのだろうと不安がありました。ここにいることが一つの答えで、自分のその先にも繋がると思います。

担当スタッフ紹介



サブマネージャー
水上 浩一
学生がここでしかできない経験をし、充実した時間を過ごせるような場作りをしていきたいです。



チーフ
永井 慎
ぜひお気軽にご相談ください。いろいろなモノゴトに巻き込まれやすい体質です(笑)

最後までお読みいただきありがとうございました。施設がよいよ完成し、スタッフ一同身が引き締まる思いです。学生の皆様、サポートクラブの会員企業の皆様と良い関係を築き「fil」が皆様の「拠り所」になるよう邁進いたします。



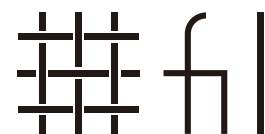
食堂 fil 担当
林 貴子
趣味・食・食べること、喋ること。大型犬飼ってます。いろいろお話聞きます。林まで。



ランドリー fil 担当
御旅屋 聡子
ご相談があれば丁寧な対応を心がけています。最近 Net flex にはまっています。



シェアハウス fil 担当
竹島 もえ
スタッフの中で学生と 1 番年齢が近いです。それを活かして学生と連携を図れるように頑張ります。



株式会社 富山市民プラザ fil 管理活用グループ

〒930-0028 富山県富山市荒町 5-5 TEL : 076-464-3936 FAX : 076-464-3937

MAIL : fil-share@siminplaza.co.jp ※事務所移転のため連絡先が変わりました。

fil 通信

fil 通信創刊にあたって

株式会社 富山市民プラザ
代表取締役社長 京田 憲明

今年も暑い夏がやってまいりましたが、「学生シェアハウス fil」をご利用、ご支援いただいております皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。「学生シェアハウス fil」は昨年の 12 月頃から数名の学生の先行入居が始まり、今年 2 月からは 1 階で「地場もん屋食堂 fil」の営業が始まりました。そして、4 月には多くの新入生も迎え、現在 17 名の入居があります。7 月には隣接地で「コインランドリー fil」と「お庭 fil」も完成し、構想から 4 年かけ、ようやく fil 全体がランドオープンいたしました。シェアハウスは全 32 室ありますので、まだ 15 室空きがありますが、一度に 1 年生で一杯にするのではなく、これからは徐々に入居学生を増やし、先輩・後輩が良い関係でシェアハウスの同居人としてお互いに切磋琢磨し成長されることを願っております。まちに住み、同級生だけではなく、先輩・後輩、そして経験豊富な社会人の方々と様々な活動を共に取り組む中で、価値観の違いを知り、社会のルールも学びながら、相手を尊敬しつつ、最後は自分で決断し、自分で実行し、自分で責任を取る。そうした自立した大人が fil から育っていくことでしょうか。なお、「fil」を運営いたします(株)富山市民プラザでは、入居学生のご家族の皆様や fil 入居学生を中心とした活動を応援していただいております「サポートクラブ」会員の企業の皆様に、fil での様々な活動や学生の生活の様子をお伝えするため「fil 通信」を発行することにいたしました。引き続き、「fil」を暖かく見守り、ご支援いただきますようお願いいたします。

富山のまちなかに学生シェアハウス fil が誕生しました。新しい風景、ランドリー fil の正面に掛けられた巨大な T シャツが道ゆく人々の視線をさらっています。つい先日、若い女性の二人組が「わー、おしゃれ！」と言いながら前を通っていきました。雑誌モデル風の外国人女性も足を止めて眺めていました。fil ができて、荒町周辺の雰囲気が少し明るくなったように感じます。

今、全国の都市で空き家・空きビル問題が深刻化し、街の活気が失われつつあります。富山も例外ではありませんが、幸い富山にはまだまだ多くの「活気のタネ」(柿の種ではありません)が街のいたるところに落ちています。その一部は、富山市が進めてきたコンパクトシティ政策の効果もあってか、この 15 年ほどでかなり大きく育ち実を結ぶようになりました。でもまだ芽を出さずにじっと待ち続けている「活気のタネ」も多くあるように思います。

富山大学五福キャンパスの周辺には約 5,000 人ももの大学生が暮らしています。多くの学生が住んでいるにもかかわらず、五福キャンパス周辺はあまり活気があるようには見えません。街よりもアパートの部屋の中の方が居心地が良いのでしょうか。五福地区はそういう街になってしまっています。それはそれで解決しなければならない大きな課題ですが、その 5,000 人のうちの一部でもまちなかを選んで住むようになれば、富山の中心市街地はもっと明るく素敵な街になるでしょう。これまでは学生の住める場所がまちなかにはほとんどありませんでした。fil ができたことで、学生とまちなかの新たな関係性が生まれてくることを期待しています。fil には「まちなかの活動や賑わいづくりに参加すること」という入居条件があります。学生の本分は学業ですが、「学び」は必ずしも教室の中だけで得られるものがすべてではありません。まちなかでさまざまな人々と交流し、さまざまな価値観に触れ、さまざまな経験を積み重ね、そして自ら挑戦することで、学生時代という人生の貴重な時期に、人間的な感性を豊かに養ってもらいたいと思います。そして、自分自身の可能性に気づき、それを最大限に広げていってもらいたいと思います。どの学部で何を学んでいたとしても、学生たちにとってそれは普遍的に大切なことです。このように「まちづくり」と「ひとづくり」をともに叶えていけるのが fil なのです。すでに世の中は AI 全盛の時代に突入し、身の回りのさまざまなモノやコトがインターネットでつながる時代になっています。数十年前からすると隔世の感がありますが、この数十年間でほとんど変わってこなかったものもあります。学生アパートもそのひとつです。しかしあの一般的なワンルームの学生アパートが学生の住まいの完成形かという、そうは思えません。これからの社会において、親元や地元を離れて一人暮らしをする学生の住まいはどうあるべきか、その現代的な解答(スタイル)のひとつがこの fil にはあると思っています。サポートクラブを通じて多くの企業にも支援をいただいています。仲間の輪を広げ、皆で fil を(街を、人を)育てていきましょう。すでに少しずつ、小さな成果が出はじめています。それらが集まり積み重なって、いずれ必ず大きな成果として実を結ぶものと確信しています。

富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科 教授 久保田 善明

fil outline

fil(フィル)は、シェアハウス棟とランドリー棟と間にあるまちなか庭園で構成されています。シェアハウス棟は、かつて証券会社として使われていた空きビルを全面的にリノベーションしたもので、ランドリー棟はかつて駐車場として使われていた土地にランドリーを新築しました。シェアハウス棟の1階は「地場もん屋食堂 fil」として、富山市産の新鮮な野菜などを使った食事を提供しており、ランドリー、食堂、庭園とグラウンドレベルは地域にも開かれた、日常的に人々が集う場となっています。



まちなか学生シェアハウスサポートクラブ

まちなか学生シェアハウスサポートクラブは、filに入居する学生の活動を支援する地元企業等で組織されて団体です。2023年7月25日現在では約40社の企業が会員となっています。

まちなか学生シェアハウスサポートクラブ第2回総会

2023年7月11日にサポートクラブの第2回総会を開催。総会では2022年度の事業報告、2023年度の事業計画、新役員の選任などが決議された。第2回総会では4名の入居学生がスタッフとして参加し、司会進行、議事録の作成、会場受付などを担い、自己紹介も行った。自己紹介の中では、「活動範囲を広げ地域作りに貢献したい」「地元の学生がプライドを持てるようなまちにしたい」「大人と積極的に関わって自身の成長につなげたい」などと、積極的な発言があった。



「わたしたちはローカルで幸せを見つける～関係人口とウェルビーイング～」

第2回総会終了後、SDGs マガジン「ソトコト」編集長の指出一正氏による記念講演会を開催。指出氏は、2023年6月25日にオープンした群馬県庁31階「ソーシャルマルシェ&キッチン『GINGHAM(ギンガム)』」プロデューサーを務めるなど、全国各地数多くのローカルプロジェクトに関わっている。今回の講演では、山形県の児童遊戯施設「べにっこひろば」の取り組みなど、全国各地の様々なプロジェクトや地域作りに関する講演をいただいた。講演会を聞いた学生からは、「filの活動にも活かしたい仕組みなど、とても刺激になった」「同年代である人たちの起業する話や、地域の方との関わり方などためになることが多かった。また、彼らの行動力とそれにも伴う結果はすごいと思った。」などの感想があがった。質疑応答のコーナーでも積極的に学生から質問があがり、意欲的に講演会に参加した。

学生の活動 REPORT

企画展示会「ADRESS」・DJイベント「FEEL in」

2023年2月6日から12日の7日間、fil入居者と富山ADC(アートディレクターズクラブ)学生会員が共同で企画展示会「ADRESS」を開催した。まちなか学生シェアハウス3階の空き部屋を活用し、富山ADC学生会員や富山大学芸術文化学部学生の作品を展示。期間中約90名の来場者が鑑賞した。また期間中の2月10日は地場もん屋食堂にてDJイベント「FEEL, in」が開催され約50名の若者らが参加した。企画展の来場者からは、「部屋を開けるドキドキ感がよかった」「filでもっとこのような学生企画イベントをして欲しい」などの声が開かれた。



暮らしの情報発信

まちで暮らしながら感じたこと、活動したことなどを学生が社会に向けて発信中。

- Instagram「around-fil」
学生が運営するインスタグラム。
- 富山シティFM「vigorノ広場」
入居者がパーソナリティも務め日々の暮らしなどを発信。
- 北日本新聞定期コラム「filライフ」
月2回程度入居者が定期コラムを執筆。



20歳で映画を見る会

2023年2月9日、まちの映画館「ほり座」の協力のもと、fil入居者とCINEMA STUDENT CLUBの共同で「ハタチだけで映画を見て感想を交流する会」を実施した。20年前に韓国で上映されたハタチがテーマの映画を鑑賞し、filで感想交流会を行った。今後もテーマを変えながら開催する予定。



新入生歓迎会



4月から新しく大学生活を始め、filに入居した学生を迎え入れるため先行で入居していた学生が企画し2023年4月19日に開催された。グループに分かれ料理対決をするなどし、入居者同士の親睦を深めながら、新生活や大学生活について情報交換をする機会となった。

留学生との異文化交流会



2023年5月15日、富山の留学生との異文化交流会がfil一階の学生キッチンで実施された。折り紙で駒や紙飛行機などを作り、日本の伝統的な遊びなどを通してコミュニケーションを図った。

総曲輪一周ウォーク



2023年6月25日(日)、快晴のなか、総曲輪地区の外周約7kmを総曲輪の歴史や街区を学びながら歩く「総曲輪一周ウォーク」に入居学生2名と総曲輪地区の住民をあわせ約20名が参加。参加した学生からは「総曲輪の歴史や街区の形成について知れて良かった」などの声が開かれた。総曲輪地区体育協会主催。

グランドオープンイベント「fil× ???」

7月7日「fil」のグランドオープンを記念し、学生が企画したイベント「fil× ???(フィルカケル)」が8日、9日と実施された。イベントタイトルは、filの入居者と'何か'が合わさることで毎回新しいことが生まれる楽しみを作りたいという思いからネーミングした。今回はfil(フランス語で糸の意)という施設名称にもちなみ、糸を使って描く絵画とも表現されるタフティング技法を使いラグマットなどを製作している石川県金沢市にあるワークショップスタジオ「9m²」のPOP UP ショップの出店や、入居学生によるフリーマーケット、ラテアート体験、焼き菓子販売などを行った。企画した学生からは、「今後も若い世代がまちなかに足を運ぶ目的となるような企画をしていきたい。」と意欲を見せた。



ラテアート体験

入居学生が講師を務め「ラテアート体験」を実施。イベント2日間で約20名が参加した。講師を務めた前田さんは「参加者と会話し、filの学生とイベントがした経営者や自分の子どもの家庭教師として関わりを持って欲しいという親子がいることも分かり、誰もが繋がることができるコミュニティ作りをしていきたい」と、今回のイベントで感じた話を話した。

